

中2の間に身につけたい6つの力

1年後に求められるものから逆算する

突然ですが、1年後の自分を想像してみてください。みなさんは3年生で受験学年になっています。そして中学では、部活動や行事の担い手です。そのために相当忙しく、志望校に向かって勉強を進めていくには、「時間を有効に使う」ことがとても大切なのです。ならば、中2のうちにそのコツをつかんでおきたいものですね。

また、3年の勉強は、入試を想定した仕上げ学習が中心になります。例えば数学の場合だと、実際に入試で出題される応用問題や融合問題の解き方を学んでいくのですが、そのとき、計算がしっかり出来ること、図形の基礎知識が身につけていることなどは、当然の前提として授業が進んでいきます。だから、2年の間にそのレベルに達していることが必要なのです。

こうした考え方でピックアップしたのが、次の6つの力です。これらを意識して取り組んでいけば、自分の可能性を大きく広げることができるでしょう。

1. さっさと取り掛かる力

中学の勉強ができるかできないかは、素質や能力の問題ではありません。勉強に集中できるか、それを毎日継続できるかという習慣で決まります。

「いつまでそんなことやっているの。そろそろ勉強したら?」「今やろうと思っていたんだよー。そういうこと言われるとやる気なくなる!」

家でこんなやりとりをした覚えがある人はいませんか? やらなければいけないとわかってはいるのだけれど、注意されるとつい反発してしまうものです。お互いに不愉快になるだけのこんな場面を避けるには、先手を打つしかありません。つまり、「やるべきことを先延ばしにしないで、すぐに取り掛かる。さっと集中する」ということを心がけるのです。そういう自分をつくりあげてしまえば、たいていのことはうまくいきます。もちろん受験もおおいに有望でしょう。

勉強ができる・できないという差は、実はこんな小さなところに潜んでいます。一日は誰にでも24時間ですが、その多くを意味のある時間にしているか、自分でも納得できないロスタイムだらけにしているかで、実質の活動量には大差がつきます。

「自分には無理だ」と思う人がいたら、とにかく1日実行してみてください。こういうことは、できないと決めつけているから出来ないだけで、その気になれば案外できてしまうものです。中2の今年こそ変身の大チャンスです。

2. 段取りをつける力

塾では受験学年の3年生のために合理的なカリキュラムと個人別フォローの手段を用意し、先生たちも一人ひとりの状況を常に把握して、その折々に必要な指示やアドバイスをしていきます。それなら、自分では何も考えずに、与えられたものをやり、いわれたことを守っていればいいのでしょうか?

いいえ、そんな受動的な態度の受験生では合格を掴み取ることはできません。一人ひとりの学力、学校生活の様子、そして志望校はちがっています。そのすべてについていちばん理解しているのは自分自身なのです。いくらかの確かな指示や方針が与えられても、それをこなしていくときに自分で判断しなければならないことはたくさん出てきます。つまり、自分の現実の中で志望校に合格する学力をつけていくために、「順序や力の入れどころを決める力=段取りをつける力」が必要なのです。

2年生の間にこの「段取りをつける力」を鍛える場として最適なのは、定期テスト準備です。準備期間は2週間程度と短期決戦型ですが、「時間が限られている中で必要な学力をつけるために計画し、実行する」という意味では、長丁場の受験勉強と共通する点があります。定期テストはいい成績をとるためにも大切ですが、ミニ入試に見立てて自分の段取り力をグレードアップさせるためのチャンスにすることもできるのです。

科目別に必要な勉強時間を見積もる。苦手な科目や成績を上げたい科目は多めに時間をとる。前回結果が悪かった科目は勉強のしかたを変えてみる、等々。こんな風に一生懸命考えて最高の成果を目指すことで、キミの段取り力は確実に上がっていくことでしょう。とくに今までの定期テストで結果を出せていない人は、ぜひ取り組んでみてください。

3. 数学の基礎計算力

数学では計算力が普通考えられている以上に重要です。計算力=数学力といってもいいぐらいです。計算力を習得するプロセスは、1年の「正負の数—文字式—方程式」に始まり、2年生前半の「連立方程式—関数」まででいったん終了します。3年になると、「式の展開—因数分解—平方根—二次方程式—二次関数」と続くシリーズの勉強が待っていますが、計算の基本的な感覚が出来上がっていると、これを理解し習熟することはそれほど難しくありません。

また、入試で配点の50%程度を占める「平面図形、立体図形」の問題でも、ほとんどの場合、答えを出すには、比やピ

タゴラスの定理を用いた計算が必要です。

計算に自信があるかどうかで学力に決定的な差がつきます。「解き方さえ見えればあとは大丈夫」と思えることが、どんなに心強いかわかりませんが、ぜひ想像してみてください。

では、計算力をつけるにはどうしたらいいのでしょうか？
まずは、テキストにあるすべての問題を確実に解けるようにしてください。今は基礎分野の勉強をしているところですから、必要な手間ひまを惜しまないで、たくさん練習を積んで慣れてしまうに限り「連立方程式」と「関数」については、夏休みまで完璧に自分のものにすることを目標にしましょう。

4. 英語の手堅い文法力

今の高校入試では、公立でも私立でも、語数が多くて内容のある英語の長文が出題されます。それを読みこなさない限り合格はありませんから、3年生では、読解の演習が最大の目玉になります。そして読解力が伸びてくるにはどうしても一定の期間が必要なので、いつ本格的に始められるかが問題なのです。

長文を読むには、まず文法や語彙の知識がある程度のレベルに達していなければなりません。その部分が弱くて手間取っていると、長文読解力の天井はどんどん低くなってしまいます。

そこで、2年生の英語学習では、文法単元の勉強を一生懸命やって、できる限り力を蓄えておくことが大切です。

まずは毎週の授業や夏期講習・冬期講習に必ず出席し、集中すること。宿題を忘れずにやること。この2つを心がければ大丈夫です。

5. 国語のきちんと読む力

最近の入試の長文が長いのは英語だけではなく、国語も同じ傾向です。制限時間ギリギリという超・長文の出題もそれほど珍しいとはいえない状況ですから、みなさんが最終的に目指すのは、「スピードのある読解力」ということになります。

しかし、いきなりすばやく読もうとしてもそれは無理。まずはじっくり読んで深く理解する練習を積み、自信がついたところでスピードを意識するのが順序です。

そこで、中2は「きちんと読む力」を身につける年と考えるください。いま大事なのは、書いてあることを読み落とさないようにしっかりと意味の展開を追っていく落ちついた練習です。

目標としては、テキストや中学の教科書に掲載されているレベルの文章を苦勞せずにと読んで、意味が頭に入ってくるようになること。そこまで出来ていけば中3で読解力がぐんと伸び、読む速さをつける段階に入っていきます。

そのためには、週に一度の塾の授業に今まで以上に意識を高めて臨むことです。年間数十題に及ぶ演習の効果は、それだけでも普通感じられる以上に絶大です。

さらに、集中力をもってその時間の密度を高めることが出来れば、今年のうちにも自分で手応えが感じられるぐらい読めるようになります。

6. 理科・社会の単元消化力

理科と社会は数多くの単元で構成されています。その重みは均等で、平均して満遍なく習得することが求められます。

したがって、この2科目の勉強をスムーズに進められるようになるためには、一つひとつの単元を勉強して消化吸収する感覚をつかむことが大切なのです。

実際の学習内容は理解→暗記という形になります。ある限定された範囲の論理構造を理解して、自分で自信を持てるぐらいしっかりと覚える勉強。これを心がけてください。

現実の学習チャンスは定期テストということになるでしょう。試験範囲の単元について、テスト勉強を納得できるまでやってみます。思ったほど点数が出ない場合は、どこが不足していたか考え、次の機会に修正します。もちろん、塾の授業や定期試験対策も大いに活用してください。

これを繰り返すうちに「ここまでやれば大丈夫」と自分でわかるようになってきます。それこそが「単元消化力」の正体です。